

最優秀賞

t v k かながわM－R－A－賞

素直な心にふれて

聖セシリ亞小学校

六年 松井彩来

私は幼稚園の頃に知的障害者のための発達プログラムに参加していたことがありました。きっかけは母がその活動に参加していたからです。小さかった私は何も分からずに知的障害を持つ方達の中に交ざり、一緒に遊んだことを覚えています。初めて会った時もみんなが優しく声をかけてくださったおかげで、すぐに仲良しになりました。プログラムではリズム感を鍛えるために行進をしたり、その他にも发声プログラムやストレッチなどを行いました。時には自ら先頭に立ち私がお手本となつて行動していました。知的障害者の人達と関わってみて、だれとでも垣根がなく仲良く話してくれる姿から、とても素直な心を持つていて、小さい私の手をひいてくれたりと、とても気にかけてくれるそんな優しい一面も

持っていました。その中でも一番よく遊んだ方が数年前に亡くなつたと聞きました。ご家族もとても辛い様子でした。私は今でも明るく大きな声で話しかけてくれた彼の事を忘れることはできません。思い出の中では、彼のお弁当の中身が大好きなものでうめつくされていた事です。からあげ、お豆、ポテトフライといつも中身を私に教えてくれました。きっとお母さんが愛情をこめて作られたのでしょう。今でも思い出すと胸が熱くなります。障害者の中には短命の方もいらっしゃいます。彼も二十代という短い命でした。だからこそ価値のある充実した日々を過ごしてほしい、そのためのお手伝いを少しでもしていきたいです。周りの理解と支えがあれば、障害者と一緒により良く暮らす、そんな思いやりのある社会が生まれるはずです。そして純粹な心を持つ、そんな障害者の方にふれ合つてほしい。そうしてみて、初めて気がつくことがあると思います。そんな優しさであふれる社会になることを願つています。